

**2023年 飛躍の年に****年頭あいさつ****木下 統晴理事長**

新年おめでとうございます。

こちらに来て2年、皆さんの力が合わされば、大きく成長できる大学だと考えています。キーワードは保健科学（ヘルスサイエンス）です。建学から64年、1万人を超える卒業生の方々が、保健医療に大きく貢献されています。次の課題は、健康寿命延伸だと考えます。そのため、昨年4月に健康・スポーツ教育研究センターをスタートさせ、年末に株式会社明治との包括連携協定を締結、更に熊本県の自治体、企業との連携を積極的に進めます。

パブリックヘルスは幸せづくりです。毎日を面白く、やることのある社会、健康寿命延伸というテーマです。また、日常の生活の中で、当たり前と思っていることも、一歩立ち止まってみると、「あれ、何かおかしくない」と思うことがあります。そのようなところを気づくと面白い展開ができます。年始に、これからの世の中をどのように変えていくかを考えてみませんか？

新年、明けましておめでとうございます。新型コロナは第8波を迎え、ロシアのウクライナ侵攻も終息の兆しがなく、不安定要素の多い1年となりそうです。

この様な中でも本学は着実に歩みを進める必要があります。これからの大学にとって重要なのが「ブランド力の強化」です。ご存じの様に入試・広報課を中心として発信力の強化に努めており、2年連続のテレビ熊本での特集番組の放送をはじめ、様々なイベントについて各種メディアを通して積極的に広報を行ってきました。また、去年はオンラインでのオープンキャンパスを実施し、合計の参加者数はのべ1,700人を超え、コロナ禍前と同程度の参加人数を確保出来ました。初の試みであった小中学生対象の「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」も好評を博し、本学の認知度は確実に向上していると感じています。

今年は、これらの取り組みを継続するとともに、新規事業についても積極的に情報発信を行っていきたいと思います。地域に根ざした保健医療系大学としてブランド力の強化を図ることが、入学者確保に繋がるものと期待しています。

今年も教職員一丸となって頑張りましょう！

**竹屋 元裕学長****仕事納め式 1年を振り返り 新しい年に誓い新た 仕事始め式**

2022年の仕事納め式と2023年の仕事始め式があり、1年を振り返り、新年の飛躍を誓いました。

仕事納め式は12月27日（火）、50周年記念館であり、木下統晴理事長が永年勤続の6人を表彰した後、竹屋元裕学長が「本学の長期ビジョンである『保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる』というビジョンに向け着実に歩みを進めています。今後も学びやすい学修環境、働きやすい職場環境の構築に努めてください」とあいさつしました。

1月5日（木）に1300L講義室であった仕事始め式では、木下理事長がスライドを使い「人と組織の連携のもとに面白く魅力的なリーディング大学を目指しましょう」と、出席者に呼びかけました。



永年勤続被表彰者は次の通り（敬称略）。

山崎栄子、田口彰子、坂本菜穂子  
沖村由紀、大塚裕一、行本夏菜

## 最適なスポーツ合宿食の開発、健康寿命の延伸

# 明治と包括連携協定を締結

本学と大手食品メーカー株式会社明治との包括連携協定が12月23日（金）に結ばれました。今後、健康・スポーツ・食に関しお互いの研究成果を生かし、スポーツ合宿での最適な食事の開発やよりよい健康寿命の実現などを目指します。

東京の明治本社で行われた調印式では、松田克也・明治社長が「熊本県内を中心に生活者に新しい価値を届けていきたい」、木下統晴理事長が「明治の技術や知見をもとに、知識を持った人材を多く育てていきたい」とあいさつし、協定書に調印しました。これに先立ち、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長と明治マーケティングソリューション部の大前恵専任課長（管理栄養士）が今夏、合同で行ったスポーツ合宿（水上村）での栄養セミナーの成果などを報告しました。

また、熊本県からは東京事務所の内田清之所長が蒲島郁夫知事のメッセージを代読、サプライズでくまモンが登場し、出席者を大喜びさせました。

包括連携協定の締結により、本学と明治は今後、主に ①スポーツ合宿における最適な食事の開発、②熊本県内のジュニアアスリートを対象



に競技力向上や疲労回復などを目的とした食事に関する教育プログラムの開発、③「食」に関するサポートを通じたジュニアアスリートの育成、④健康寿命延伸を目的とした総合プラットフォームの展開—に取り組みます。

明治が大学と包括連携協定を結ぶのは初めてです。=写真は、くまモンと共に記念撮影する木下理事長（左）と松田社長

## 日本基礎理学療法学会学術大会

### 田中講師に優秀賞



第27回日本基礎理学療法学会学術大会で、田中貴士講師（リハビリテーション学科理学療法専攻）=写真=が参加250演題の中から次点の優秀賞に選ばれました。

学会は10月1、2日に大阪国際会議場で開催され、各賞は12月21日付で発表されました。田中講師は「自発的な走行運動は高齢期に失われる脳損傷後の神経可塑性を回復させる」と題して発表。高齢期のモデルマウスを用いた研究で、自発的かつ継続的な運動が高齢期に失われる脳損傷後の神経修復力を回復させる効果があることを明らかにしました。

田中講師は「われわれの研究が受賞され、嬉しさとともに身が引き締まる思いです。この研究成果を、健康長寿の実現に発展させてまいります」と喜びのコメントを寄せました。

（入試・広報課）

## 国試合格へ恒例「暗記大会」 医学検査学科

医学検査学科では国家試験対策として2020年から「冬の暗記大会」を行っています。各科目の先生に「ここは暗記しておいて！」という内容を選んでもらい、暗記とその確認までが1セットとなっています。3回目となる今回は、より高い効果を目指す工夫も試みました。

12月初旬から中旬にかけての9日間実施。開催時間をこれまでの放課後から1限目に変更しました。これは、朝から脳をフル稼働してもらおうとの試みです。また、実施手順も①国試問題を解く、②①と関連する暗記シートを暗記する、③暗記できているか関連する国試問題を解く、④覚えられているか翌日に関連の国試問題を解く、という4段階を設定しました。これにより、暗記した内容が国試にどのような形で出題・反映されるのか、学生に対してより具体的に伝わったと考えています。

大会には延べ372人が参加し、そのうち皆勤賞の学生は10人でした。国試本番まで残りわずか。暗記大会で学んだことを活かしてぜひ頑張ってください。

（医学検査学科・田邊香野）



## 「障害者スポーツ指導論」

## リハビリテーション学科理学療法学専攻 久保下 亮講師

本科目は、多様な障がい者スポーツ活動に対応するため、必要な知識と見識を身につけるための授業です。「障がい」とは何か、障がい者スポーツを取り巻く社会的な環境はどうなっているか、そして、障がい者スポーツを発展させていくために必要な事項やサポート体制などについて学びます。さらに、実際の障がい者スポーツを体験し、独特なルールや特徴、面白さを体感してもらいます。本科目の授業単位を取得することで、障がい者スポーツ指導員（初級）の資格を得ることもできます。

今年度は、アクティブ・ラーニング形式の授業を多く取り入れ、学生自身が障がい者スポーツの現場において、自身で考え、適宜適切な行動がとれるように展開しています。学生が就職後、各地域で障がい者スポーツに関わっていく際に、積極的な行動と確かな信頼関係を築いていけるように、グループディスカッションなども多く取り入れています。

担当教員は、地域の障がい者スポーツの支援活動からパラリンピックでのトレーナー活動まで、幅広く経験してきました。その中で実感するのは、理学療法士や作業療法士の支援を快く

面白さ体感し理解深めて現場へ

受け入れてくれているということです。それは、選手の多くが一度はリハビリテーションを受けたことがあるからです。授業では、こうした経験を学生の一人一人と共有し、障がい者スポーツの楽しさだけでなく、競技スポーツの側面まで伝えるようにしています。そして、理学療法士・作業療法士だからこそ障がい者スポーツに関わり、素敵なサポートをしてくれるように、共に歩いていきたいと思っています。



卓球バレーを体験する学生たち

選書ツアーで、本を選ぶ参加者



## 「まるぶん」で選書ツアー

第12回「選書ツアー」を12月17日（土）、熊本市中央区の金龍堂まるぶん店で行いました。参加者は7人と少ない人数でしたが、書店の中を端から端まで棚を見て回り、159冊の本を選びました。まもなく展示予定です。今回も専門書から小説まで幅広い内容の本が揃っていますので、皆さんぜひ読んでください。

また、図書のリクエストは随時受け付けておりますので、読みたい本や学修に使いたい本がありましたら、図書館までお申し込みください。



## 3年ぶりクリスマスコンサート

第59回「私の部屋でランチを」は12月20日（火）、3年ぶりのクリスマスコンサートを開催しました。演者は吹奏楽部の皆さんで、誰もが知っている楽曲を演奏してくれました。キャンパステラス46人、サテライト（1500M講義室）4人、Zoom視聴16人が参加し、最後の曲「LAST CHRISTMAS」ではみんなで演奏に合わせて手拍子を取り、楽しいひと時を過ごすことができました。

また、クリスマスコンサートに合わせて図書館所蔵のクリスマス関連の本も展示し、参加した皆さんが関心を寄せていました。=写真はクリスマスコンサートの会場



## OGの高橋さんらが祝い金 「経験積み重ねて」

本学の医療ボランティアサークル「Lovers～難病患者・家族を支える会」（Lovers）が内閣府特命担当大臣表彰を受けたのを祝い、12月12日（月）サークルOGたちから祝い金が送られました。

大学3年次にLoversを立ち上げたOGの高橋知恵美さん（初代部長、旧姓平田）と下山佑紀さん（旧姓内野）＝いずれも2008年看護学科卒＝が12月12日（月）に来学。1500M講義室でLoversの部員たちが見守る中、部長の山下光さん（医学検査学科2年）に祝い金を手渡しました。

この祝い金は、Loversの大臣表彰を受け、高橋さんが同級生や後輩OGに声をかけるなどして集めたものです。後輩たちに対して高橋さんは、「学生時代に経験して考えたり悩んだりしたことは、その後の人生の糧になります。『出逢いに感謝』して、いろんな経験を積極的に積み重ねてください」とコメントしてくれました。（入試・広報課）



Lovers部員たちとOGの高橋さん（前列右から2人目）と下山さん（同3人目）

### 車いすに乗り、学内施設を点検する学生



令和4年度第2回養成講座を12月10日（土）、1501M講義室及びLLPCで開催し、ピア・サポーター49人、プチ・サポーター43人が参加しました。

今回は、「ピア・サポーターによる学内総点検！ーバリアフリーの推進に向けて」をテーマに、学内を9つのエリアに分けて点検。各グループが報告を行い、結果を共有しました。

学生からは「学内にこんなに多くのバリアがあったのか」「まずは私たちが気に留めることから始めたい」といった声が多く寄せられました。バリアフリーについての理解を深め、普段何気なく利用している施設や建築物を違った視点で見つめる良い機会になったと思います。この学びを今後の様々な活動に活かしてくれることを期待しています。（学生相談・修学サポートセンター）



久保 高明教授  
(リハビリテーション学科理学療法学専攻)

### 児童の姿勢不良に警鐘

12月10日（土）、熊本市立健軍東小学校（吉田高広校長）で、健康講話を行いました。同校学校保健員会による「子どもフォーラムin健軍東」の一環。全校児童（255人）と保護者のほか、学校評議員や市教委職員も聴講しました。

今回の講話は、児童の間で、授業中の姿勢不良や健診での脊柱アライメント不良が増えたことに対する先生方の危機感を受けたものです。外遊びの減少に伴う運動不足など、姿勢不良の原因として考えられることや、姿勢が及ぼす健康面などへの影響について話をしました。

当日は講話の内容を踏まえ、クラスごとに児童と保護者が良い姿勢を続けるための目標や具体的な取り組み方法などを話し合い、それぞれの代表者に発表してもらいました。「姿勢に関するポスターを掲示する」、「外に出て運動をする」など、児童たちが主体的に取り組める内容について多くの提案がありました。



久保教授による健康講話の会場

最近よく実感しています。同じ熊本県でも地域によって寒さが違うということ。

私は昨年3月まで錦町に住んでいました。四方を山に囲まれた盆地で、昼夜の寒暖差が激しいところです。今の時期は濃い霧のため、あたりが真っ白というのがしょっちゅうです。

実家にいる頃、冬になると外では身体を丸め、ポケットに手を入れて通学していました。もちろんマフラー、カイロは必須です。手が冷たい風にあたるとかじかんで、痛みさえ感じるほどでした。

厳寒の人吉球磨で18年間過ごしたので、寒さには強いと自負しています。熊本市内も朝



夕は寒いけど、さすがに霧が出るほどではありません。視界を遮るものがない中での通学は快適です。寒いといっても、こたつはいらず、服の重ね着で耐えられるような気がします。

光熱費が値上がりしているので、お金を使わなくてもできる寒さ対策をしなければいけません。今年の冬は小池都知事が着用を推奨している「タートルネック」を着て過ごそうと思います。

(アカデミックスキル支援センター・学生広報スタッフ)

私のお勧め記事

(このコーナーはDive! LSP 1年生が担当しました)

安全で安心できる教室に  
21年度全国の小中学校 不登校が過去最多

(熊本日日新聞、2022年12月9日付朝刊、11面)

概要

全国の小中学校で不登校になった児童・生徒が2021年度は24万人を超え、過去最多となった。10年前に比べ倍増、背景にはコロナ禍があるとみられる。専門家は「教室が安心できない場だと感じる子どもが増えている」と指摘する。文科省は「不登校を問題行動と判断してはいけない」とし、学校に通う事を普通とする考え方から抜け出すべきとしている。

(リハビリテーション学科言語聴覚学専攻・喜屋武凜香)

コメント

子どもにとって学校と家庭のコミュニティが大部分を占める中、学校での環境に安心できない場合は学校に行かないという決断をしてもいいと思う。たしかに、行かないという選択肢をとったことで勉強など自主的にしないといけなくなるが、学校外で勉強することから得られるものも多くある。「学校に行かないという選択肢をとることは甘えではない」ということを、子どもの保護者などだけではなく、周りの大人も知って欲しいと思った。(医学検査学科・平川愛菜)

インフォメーション

週間行事予定 (1月14日~1月20日)

1 / 14 (土)、15 (日)	大学入学共通テスト
1 / 16 (月)、17 (火)	入試業務説明会